

# AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会 / (公財)日本自然保護協会 / 林野庁関東森林管理局

## 赤谷の森だより

2016.11.01

vol. 33

赤谷の森でわかったこと

### 「イヌワシが7年ぶりに 子育てに成功しました!」

(公財)日本自然保護協会・赤谷プロジェクト  
猛禽類モニタリングワーキング事務局

出島 誠一

トピックス

#### ●地域と繋がる赤谷プロジェクト

みなかみ町立新治小学校 校長 林 和高

#### ●たくみの里「森の恵みと学びの家」から

市毛 亮

小出俣沢「巨樹・巨木コース」の  
大カツラと出会う

赤谷の森ミニ写真館!

今回のテーマ 赤谷の森の分解者(夏~秋)

赤谷プロジェクト・サポーターにご協力いただきました。



ヌメリササタケ



キララタケ



ハナホウキタケ



ヤマフシタケ

# 赤谷の森で わかたこと



雌の親鳥(右)と、イヌワシ幼鳥(左) (撮影: 松田大介 2016年10月2日)

## イヌワシが7年ぶりに 子育てに成功しました!

(公財)日本自然保護協会・赤谷プロジェクト  
猛禽類モニタリングワーキング事務局

出島 誠一



小中学生を対象に、イヌワシを観察して学習する機会を設定しています。親子での参加も歓迎します。興味のある方はぜひお問い合わせください。

赤谷の森の豊かさを知る指標として、生態ピラミッドの頂点にたつ1つがいのイヌワシのモニタリング調査が続けています。赤谷の森のイヌワシは、1993年にモニタリング調査を開始し、2015年までの22年間で7回子育てに成功していましたが、2010年以降は6年連続で失敗していて、生息環境の悪化が懸念されていました。しかし、今年、7年ぶりの子育てに成功したことを確認できました。

巣を離れて獲物を探すことができず。ただ、ヒナは育ち盛りで食欲旺盛なため、巣立ちをむかえる6月中旬頃まで、雄と雌は必死に獲物を探し続けます。つまり、イヌワシの子育てが成功するには、獲物となる動物が多く生息する、豊かな森が必要なのです。

イヌワシの子育ては冬に始まります。2月中旬頃に卵を産み、4月初旬にヒナが孵化します。日中でも氷点下になる時期のため、産卵後に雌は卵を抱き続け、孵化後もヒナを抱いて暖めます。その間、雄は狩りに行けない雌の分も獲物を探す必要があります。5月頃になると、ヒナに羽毛が整いはじめ、気温も高くなるため、雌も

赤谷プロジェクトでは、2014年9月からイヌワシの生息環境を向上させるため、イヌワシが狩りができない人工林を伐採し、狩りができる環境を創出するとともに、ブナ・ミズナラ主体の自然の森を復元する取り組みを進めています。今年の子育ての成功は、この取り組みの直接的な効果ではないものの、イヌワシが子育てできる赤谷の森の豊かさが示されました。今後、イヌワシが安定的に子育てができる森を目指して、取り組みを進めていきます。

赤谷プロジェクトでは、地元



巣立ち後10日程度の赤谷の森のイヌワシ幼鳥  
(撮影: 折内耕一郎 2016年6月24日)

## 地域と繋がる赤谷プロジェクト



みなかみ町立新治小学校

校長  
林 和高

### 自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

この4月に赴任してきました。生まれも育ちも、そして現在の住居も新治です。新治は今も自然豊かですが、私が子どもの頃はもっと人の手が加えられていない自然が多かったように思います。小川があり、オニヤンマの通り道だったり、ホタルが庭先まできたり、たくさんの魚がいたりしました。

さて、本校では総合的な学習の時間を中心に新治の自然について学んでいます。赤谷地区の千葉村で行うサマースクールや三国方面への遠足は、直接自然に触れながら学ぶことができる貴重な機会になっています。

### 赤谷プロジェクト関係者とお知り合いになった経緯をお知らせください。

赤谷プロジェクトの方々にはこれまで、サマースクールや遠足での自然体験学習や総合的な学習の時間などでお世話になっています。さらに今年度は、本校を会場として7月30・31日に行われた「みなかみ町木育キャラバン」でも大変お世話になりました。2日間で参加者700人と関係者を含め、およそ



サマースクール



三国遠足

800人による大イベントになりました。

### 今後、赤谷プロジェクト関係者で行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

7月30・31日の木育キャラバンを「木育」のスタートとし、PTA活動の一環として今後も親子で環境について考える取組を進めていこうと考えています。10月16日には「木育パート2」ということで「親子ドングリ拾い」を実施しました。この取組は、「新治小、未来へつなぐ森づくり」と銘打ち、森で採取したドングリ(種子)と土を持ち帰り、苗を育てて来年植樹する計画です。10年後、20年後を見据えた壮大な計画ともいえます。成功するか否かは現時点ではわかりませんが、赤谷プロジェクトの方々とともに夢を追えれば幸いです。これからもよろしくお願いいたします。



木育キャラバン

## たくみの里

## 「森の恵みと学びの家」から

みなかみ町では、町の自然を活かしたまちづくりを推進しており、平成29年の夏頃のユネスコエコパーク登録を目指しています。

そのプレイベントとして、7月30、31日には「木のおもちゃで遊ぼう」と題して、東京・四谷にある東京おもちゃ美術館からたくさんの木のおもちゃが新治小学校に集まり、みなかみ町の職人の方々によるワークショップやセミナーなども開催。親子で木とのふれあいを楽しんでいただくイベントとなりました。



ヒノキ玉のお風呂

イベントの中では、みなかみ町長からウッドスタート宣言(木育推進活動宣言)が行われました。ウッドスタートとは、日本グッド・トイ委員会が展開している「木育」の行動プランのことで、子どもをはじめとする全ての人たちが、木の温もりを感じ



一般財団法人  
みなかみ農村公園公社  
いちげ まこと  
市毛 亮さん



ながら楽しく豊かに暮らすことができるようにする取組のことです。具体的には、生まれた赤ちゃんに木のおもちゃをプレゼントする誕生祝い品事業などがあります。

森の恵みと学びの家ではみなかみ町の誕生祝い品として、「森のカスタネット 森のラトル」を開発しており、みなかみ町から今年子供が生まれた家族にプレゼントされました。部屋に飾ってもとてもかわいらしい木の温もりたっぷりのおもちゃです。このおもちゃが、子どもたちの感性豊かな心を育み、町の自然のことなどに興味を持っていただくきっかけとなると嬉しいです。

森のカスタネット 森のラトル▶



お知らせ

### 赤谷プロジェクトに関するイベント予定

## 赤谷の森自然散策(冬)

開催日：H.29.2.11(土・祝)

・赤セ主催イベントの詳細等は準備ができ次第赤セ HP で掲載いたします。

### 着任のご挨拶

H28.8.1付

関東森林管理局計画課長  
近藤 昌幸

8月に着任しました近藤と申します。今後も多くの人による「協働」プロジェクトとして推進できるよう取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。



### 人事異動 H28.10.1付

計画課自然再生指導官  
山口 健一

小林 安雄



色々な活動をしているよ!

## 赤谷プロジェクトの活動

# トピックス



H28.7.21

**新治小学校サマースクール** プロジェクト3者が講師となって、森の動物たちのこと、森と私たちのつながりについて考えるプログラムを実施しました。



H28.7.29

**北っ子くらぶ ディキャンブ** 「森の恵みと学びの家」の市毛さんとともに、月夜野北小「北っ子くらぶ」に出張森林環境教育を実施し、クラフトやモニタリング体験を行いました。



H28.7.30-31

**赤谷の森で木育～赤谷プロジェクト活動報告会2016～** みなかみ町木育キャラバンの一角で、赤谷プロジェクトも「赤谷の森で木育」を開催し協力しました。



H28.8.2

**さの子どもECO教室** 高崎市の「さの子どもECO教室」が赤谷の森を訪れ、「森の探検ウォークラリー」を体験し、利根川の源流、小出俣沢でたくさんの自然を体感しました。



H28.8.11

**環境と森と木のまつり** 利根沼田森林管理署とともに出展し、クラフトと赤谷プロジェクトの紹介をしました。午後には「みどりの女神」も来店し、種子の模型「ロケットリーフ」を楽しんでいました。



H28.9.10

**【山の日制定記念】赤谷の森へ 巨樹・巨木を見に行こう!** 赤谷の森に残る巨樹に見て触れる自然散策を実施しました。参加者は、時に巨樹に圧倒されながらも、笑顔で自然に親しんでいました。



H28.9.11-13

**千葉市立の朝日ヶ丘中、草野中に「森の探検ウォークラリー」を提供** 赤谷の森のいきものや森の仕組み、森の恵みや森と私たちのつながりについて、楽しみながら学んでもらいました。



H28.9.25

**新治小中学生イヌワシ観察会** 地元の自然を知ってもらおうと、昨年に続き新治小中学生を対象に観察会を開催しました。イヌワシは現れませんでした。たくさんの猛禽類を確認できました。



H28.10.7

**新治小学校6年生「旧三国街道遠足」** 旧三国街道での歴史や森について学びながら新潟県側まで歩きました。子どもたちと一緒にセンサーカメラも設置し、12月頃に振り返りの学習を予定しています。

## 赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方) の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は

赤谷森林ふれあい推進センター

検索



## 赤谷プロジェクトサポーター募集!

(たくさんの笑顔がまっています (^o^)/)



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会：松井・出島

## 赤谷の森・基本構想掲載サイト

赤谷プロジェクトの目標や取組内容などについて詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

[http://www.nacsj.or.jp/akaya/ap\\_masterplan.html](http://www.nacsj.or.jp/akaya/ap_masterplan.html) (公財)日本自然保護協会

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/akaya/akayanomori-kihonkousou2015.html> 林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※森の恵みと学びの案内

理事(事務担当) 市毛 亮

メールアドレス m-ichige@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 松井 宏宇

<http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html>

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局  
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 魚住 悠哉

[http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya\\_fc/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html)

メールアドレス ks\_akaya\_postmaster@maff.go.jp